

高齢化に向けた商店街の計画

敷地

久留米一番街商店街

久留米一番街商店街

長さ：303.45m
幅：8.00m
建築面積：2,248.85m
天井高：7.00m

経緯

近年、久留米市に大型ショッピングセンター等ができ、一番街や、その近辺に活気があるとは言えない状況にある。平日の人通りや利用者は非常に少なく、利用者は高齢者の方がメインとなっている。私が生まれ育ったこの久留米市にある商店街にもう一度活気を取り戻し、なおかつ一番街の利用者のメインとなっている高齢者の方に優しく、楽しいと思える、商店街の計画ができないかという思いからである。

一番街の現状

空き店舗が所々に見られ、人通りの少なさや利用者の少なさから活気があるとは言えない状況である。その中でも、西鉄久留米駅に隣接している商店街なので、通り道に利用している人が多くみられた。しかし毎年6月の後半から8月の前半にかけて毎週土曜日に土曜夜市が開催されている。この土曜夜市では多くの出店がでており、さらに多くのイベントが開催されており、一番街全体が活気にあふれ、老若男女問わず、多くの人でにぎわっていた。だが年々、出店の数や来客数は減ってきている。

調査結果

久留米市では中心市街地活性化のために、様々な調査をおこなっていた。「中心市街地活性化のために特に力を入れてもらいたい取り組み」の調査では、「空き地や空き店舗の解消」が半数の方が回答しており、中心市街地の空洞化を食い止めることが強く望まれている。平成20年の26.8%をピークに平成25年末では17.0%まで減少している。また独自に一番街やその周辺の様々な店舗の店主や来街者に聞き込み調査を行った。「近年の一番街についてどのように思うか」「これからの一番街はどうあってほしいか」という質問に対し、半数以上の方が「昔に比べてにぎわいがなくなってきている」「今よりも昔のような活気が戻ってきてほしい」と回答している。

計画

久留米市が掲げる「人に優しいスローライフが輝く街」「高齢者や子育て世代が安心して住みやすい街づくり」の基本コンセプトや、現在の一番街の現状から、計画を進めているのは、高齢化に向けた商店街である。現段階のイメージでは、老人ホームや保育所などの福祉施設と既存の商店街の共存である。福祉施設としても機能し、商店街としても機能している1つの施設として計画している。現在の一番街にある店舗を残しつつ、既存の空き店舗に老人ホーム等の福祉施設をいれていく。そうすることで、空き店舗の解消、一番街の活性化、久留米市が掲げる基本コンセプトの実施、少子高齢化に向けた対策、これらの事に繋がるのではないかと考えている。また一番街の利用を一部の店舗、一部の場所だけで終わってほしくなく、一番街全体を回遊してほしいと思っている。そうすることで一番街全体を1つの施設として捉えることができ、様々な場所、様々な年代で交流が生まれ、活気のある商店街になるのではと考えている。



平日の一番街。利用者はとても少なく、通り道として利用する人が多い。通行していても店舗に入ったりなどもなかった。また利用者の大半は高齢者の方だった。

空き店舗が所々にあり、シャッターが閉じているため、にぎわっている商店街という印象をもつのは難しいなと感じた。空き店舗の数が減少するだけでもまた別の印象を与える事ができるのではないかと感じた。



土曜夜市の時の一番街。平日に比べ圧倒的に来街者が多く、にぎわいのある商店街になっていた。この時は雨にも関わらず通行も難しい程のにぎわいがあった。快晴時の土曜夜市はより一層にぎわいのある商店街へと変貌をとげていた。

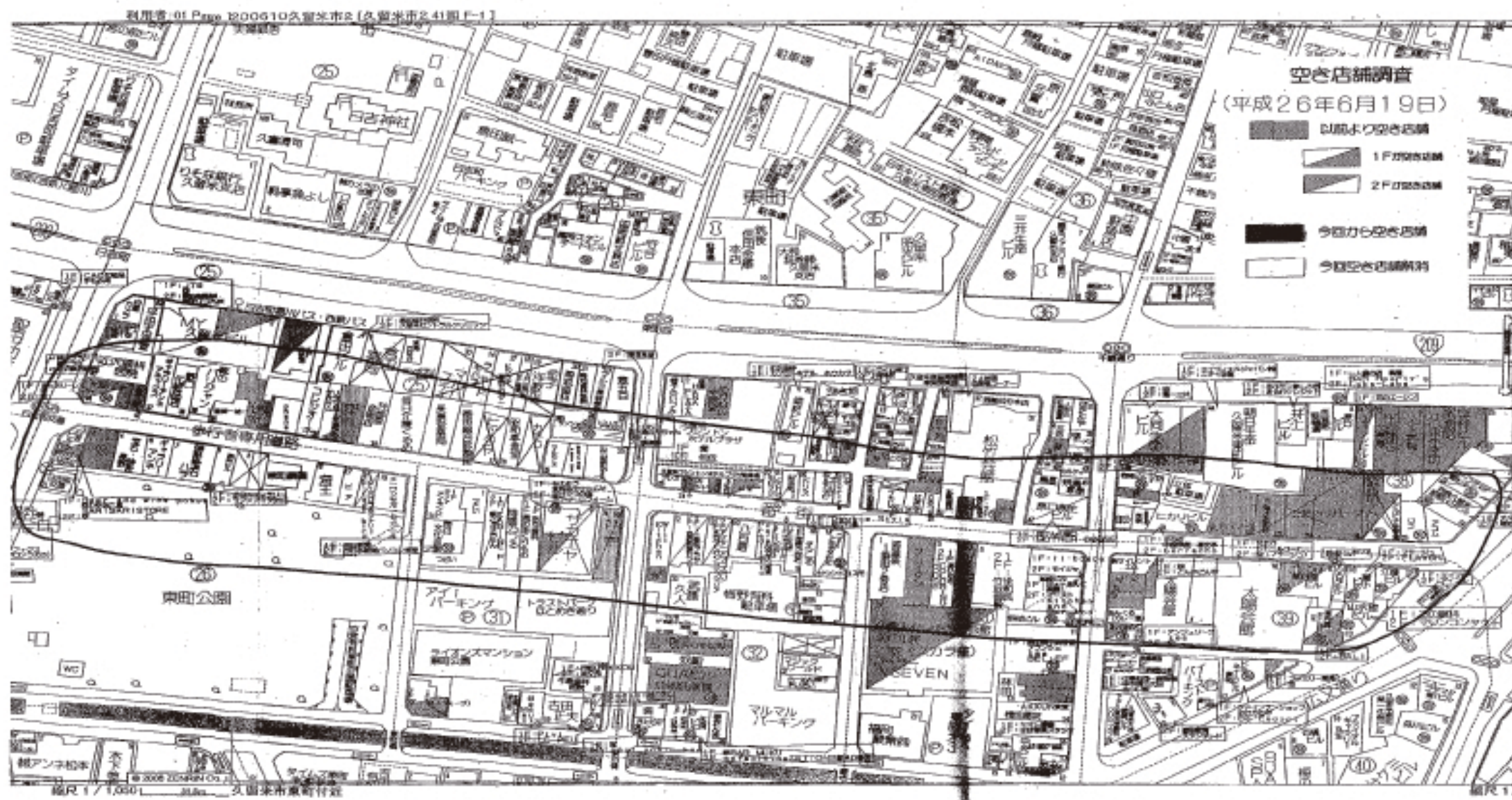
久留米市のイベントの開催や情報を発信する時に使用できる掲示板。このような情報の共有や発信できる、場や機会は重要であると思う。

高齢化に向けた商店街の計画

黒枠で囲まれた場所が一番街。
一番街やその周辺で計画。

一番街全体の計画

一番街利用者に、ある特定の場所だけで終わって欲しくなく
一番街全体を回遊してほしいと思い、このような計画にした。



1、介護専門学校

一番街に計画している老人ホームや高齢者のシェアハウスに介護の実習や手伝い等で介護の経験ができ、育成につながると考えている。施設利用者も交流の幅が広がり、学生との会話が1つの楽しみになればと思う。また、一番街やその周辺で買い物や食事をする事で若い層の利用者が増え、一番街の活性化につながるのではないかと考えている。

2、高齢者のシェアハウス

介護の必要ない元気な高齢者の方が住まい、お互いに協力しあいながら、食事や入浴や洗濯などの基本的な生活に必要な事を入居者同士でおこなう。緊急時も個人の部屋に他の入居者に知らせるベルなどを設置し、入居者で助けあう。また買い物などの外出も自由におこなう為に比較的に駅の近くに計画。

3、趣味スペース (男性メイン)

囲碁や将棋、麻雀など、男性が好む趣味が楽しめる場として計画。一概には言えないが、男性の施設利用者は人との交流を避け、部屋にこもりっぱなしであると問題になっている。それでも良いのかも知れないがやはり、会話などの交流を深めて行ってほしいので計画した。

4、休憩、交流、情報発信スペース

様々な人が休憩、談話、勉強、読書などで利用できるスペースとして計画。また、イベントの開催や情報の共有などの情報を発信できるスペースでもあるので、オープンなスペースとして計画。

5、老人福祉センター

無料で高齢者に関する各種の相談に応ずるとともに、高齢者に関しての、健康の増進、教養の向上などを供与する事を目的とした施設。

6、カフェ

例えば、託児所に子どもを送った後の親、お昼にお茶会をする主婦、授業の空き時間などに利用する学生、仕事前に利用する会社員、会話やコーヒーが好きな施設利用者、など、様々な年代が様々な理由で集まり、そこで交流が生まれたらと考えている。

7、老人ホーム

ショートステイやデイサービスをおこなう施設と、入居型の施設を計画。建物は違えど、行き来ができ、イベントや行事などは一緒におこなう。また一番街内は自由に歩けるように計画。商店街なので段差もなく、万が一の際には、商店街利用者や、お店の人がいるので、安全面もあり、自由に買い物や会話を楽しめるのではないかと考えている。

8、託児所

近年、待機児童や、共働きの家庭が増えている。その問題の解消とともに、一番街に計画している老人ホームで定期的にレクリエーションなどを開催し、交流を深め、高齢者の方の楽しみや子どもの発育、教育につながると考えている。